

## 未来を担う青年農林水産業者

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸	かわもと てつお 河本 鉄男  (北栄町妻波)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成 21 年に就農し、スイカを柱にハウスの後作にメロンと小玉スイカを、露地トンネル後作にブロッコリーを栽培。</li> <li>②令和 2 年に経営移譲を受け、施設栽培への転換を進めている。</li> <li>③令和 2 年から大栄西瓜組合協議会の販売副部長を務め、令和 5 年からブロッコリープラグ苗定植利用組合長も兼任。</li> <li>④JA 鳥取中央青年部大栄支部委員長や地元妻波地区の青年部活動であるパイオニア会長等を歴任。</li> <li>⑤スイカ産地の発展に貢献するとともに、高品質のものを作るため日々努力されている。</li> </ul>
畜産	こだに かずき 小谷 一起  (日野町小河内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成 27 年に親元就農し、平成 28 年に家族経営協定を締結、令和元年に認定農業者となり、令和 4 年に父から経営移譲された。</li> <li>②フリーストール牛舎の採用や、大型ファンによるトンネル換気の導入等により、牛のストレスを軽減させるなど、乳質・乳量の向上に取り組んでいる。</li> <li>③家族経営協定の締結やエサ寄せロボットの導入等、労働環境の改善にも取り組む。</li> <li>④令和 2 年からは「日野町がんばる地域プラン」の堆肥散布事業に畜産堆肥を供給し、町内における循環型農業の推進に貢献している。</li> </ul>
畜産	さかぐち なおすみ 坂口 直純  (琴浦町徳万)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①関西の IT 関連の企業から 4 年前に U ターンし就農。養豚経営歴 45 年の父から、養豚経営に関するすべてを引き継ぎ中。</li> <li>②昨年は提携している生協の農場点検にも積極的に対応し、指摘事項に対しても素直に受け入れるなど前向きに取り組んでいる。</li> <li>③厳しい環境の中で減少傾向にある県内養豚農家において、今後を担って行くことができる存在である。</li> </ul>
園芸	たさき としあき 田崎 俊亮 たさき みさこ 田崎 美沙子  (鳥取市 吉方温泉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成 26 年に大阪から妻の出身地である鳥取市に移住。とっとりふるさと就農舎での 2 年間の研修を経て就農。</li> <li>②梨栽培では、収穫時期の分散化を図り、幸水、新甘泉に加え 7 月下旬から収穫可能な「はつまる」、二十世紀、王秋を栽培することで収量安定につなげている。</li> <li>③ブドウ栽培においては、シャインマスカットのほか「BKシードレス」を導入し、市場のニーズに合わせた品種栽培を行っている。</li> </ul>

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸	なかむら やすゆき 中村 泰之  （米子市泉）	①実家の工務店に務めながら、家庭菜園をしているうちに農業に興味を持ち、就農を決意。アグリスタート研修を経て平成 27 年に就農。妻、息子も手伝うようになり、平成 30 年に家族経営協定を締結。 ②反収向上のため、栽培技術や調製作業、経営などの課題に対して改善を図り、令和 3 年に認定農業者となった。 ③令和 4 年度まで JA 鳥取西部白ねぎ部会の箕蚊屋地区部会長を務め、アグリスタート研修の受入れ先となる等、地区のリーダー的存在として地域農業を担っている。
水産	はしもと ゆうき 橋本 有喜  （大山町御来屋）	①平成 14 年に漁師である父親の漁船に乗り、兄と共に家族ぐるみで漁業に従事。 ②平成 19 年に鳥取県漁業経営開始円滑化事業を活用して新船建造し、独立経営を開始。 ③現在は刺網漁業を主体に、資源動向の変化が激しい環境下でも安定した水揚げを確保している。 ④御来屋地区の若手漁業者の一人として、様々な事業や行事等にも精力的に参加するなど、周囲の評価も高く信頼されており、地元漁業の将来を担う若手漁業者として期待される。
園芸	ふじかわ ゆういち 藤川 優一  （北栄町西園）	①平成 26 年に妻の実家がある北栄町に I ターンし就農。ねばりっこ、らっきょうを経営の柱にししながら、近隣の空きハウスを借りてメロンやミニトマトの施設野菜を栽培。 ②令和 2 年から長芋生産部指導部員、令和 5 年から大栄ミニトマト生産部役員として活動し、生産性向上のため栽培試験等に積極的に取り組んでいる。 ③新規栽培者への助言や相談にも積極的に応じており、自身が新規就農者だった経験を活かして、将来は新規就農希望者の窓口的役割を担いたいと考えている。

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸	まつい わたる 松井 航  （大山町岡）	①令和元年に親元就農し、令和4年に父親から経営継承。就農時から規模拡大を進めており、令和5年の栽培面積は250aの予定。 ②白ねぎの端境期である6月に収穫を実現するため、トンネル被覆栽培や品種・資材の試験を行う等、白ねぎの周年栽培や安定生産に向けた取り組みを積極的に実施。 ③若手白ねぎ農家の会合では主要メンバーを担うなど、地域の生産者と繋がりながらこれらの技術確立や普及にも取り組んでいる。 ④規模拡大を進めても反収や品質は落とさないよう心掛けており、令和3年度の白ねぎ多収穫共励会において優秀賞を受賞した。 ⑤令和5年～現在 大山町白ねぎ部運営委員
園芸	やまだ きよたか 山田 清生  （湯梨浜町藤津）	①県外で就職していたが、梨の魅力を感じてUターンし、町内農家での研修を経て令和2年に就農。 ②松崎駅南梨団地に入植し、新甘泉と王秋のジョイント網掛け栽培を開始。同時期に入植した新規就農者と共に、防除担当としてスピードプレイヤー（防除作業機）のオペレーターを務めている。 ③梨づくりにかける思いは強く、仲間づくりと情報交換を積極的に行うとともに、常に問題意識を持ちながら技術の向上につなげることを心がけ梨栽培に取り組んでいる。 ④令和4年には湯梨浜町うまい梨づくり共進会の表彰を受賞。 ⑤東郷果実部果実指導員、舎人果樹研究同志会会員。
園芸	ややま みつよ 矢山 光代  （八頭町池田）	①平成29年に親元就農し、令和2年から認定農業者として父と共同経営を開始、同年経営継承。現場経験を積みながら、栽培管理技術の習得に励んでいる。 ②ハウス、露地栽培で早生品種から晩生品種を組み合わせ、農繁期のピーク分散と収穫期の労力分散を図っている。令和2年度に既存園の一部を王秋、おさゴールド二十世紀に改植、新甘泉は既存樹への高接ぎや新植・間植で増やしており、収益向上と作業の省力化を目指す。 ③平成29年に発足した八頭果樹新規就農者研究会に参加し、技術研鑽や仲間作りに励んでいる他、八頭郡農業女子会の会員として、平成30年、令和元年に作業場の3S（整理・整頓・清掃）を実践した。